

外来診療のご案内

診療時間	月	火	水	木	金	土日・祝
9:00 ~ 12:00 (受付 8:30~11:30)	渡邊 裕志	渡邊 裕志	渡邊 裕志	成田 渉	今田 元	休診
午後	休診					

新患を含め、外来リハビリをご希望の方は**完全予約制**です。
事前にお問い合わせください。



予約・お問い合わせ **022-351-8118**

[受付時間] 9:00 ~ 17:00 (月~金)

編集後記

早いもので、3月の年度末となりました。当院でも長年勤めた職員との別れがあり、寂しさを感じる季節ですね。個人的には、1年前の今頃は子どもの卒園式、入学準備と慌ただしく、いわゆる「小1の壁」にも怯えていましたが、周りの方の理解や協力があり、なんとか勤め続けられています。この広報誌も快く寄稿してくれた皆さんのおかげで発行できています。この場を借りて、ありがとうございました。

今後も当院の魅力を発信できる広報誌となるよう、発行を続けていきます。

地域医療連携室 白田



近所の公園に梅が咲いていました！

医療法人社団脳健会
仙台リハビリテーション病院
地域医療連携室

〒981-3341 宮城県富谷市成田1-3-1
Tel: 022-351-8118 (代表) 022-346-8497 (直通)
Fax: 022-351-8126
ホームページ: <http://www.sendai-reha.or.jp>



仙台リハビリテーション病院
ホームページ

[関連病院]
仙台東脳神経外科病院
〒983-0821
宮城県仙台市宮城野区岩切1丁目12-1
Tel: 022-255-7117 Fax: 022-255-7760

発行元



Link!

TAKE
FREE

2024.3 Vol.24



Topics 介護予防・日常生活支援総合事業

Notice ユニフォーム紹介

医療・介護の連携について～とみや南部健康福祉ネットワーク・笑結び～

2024年度は医療・介護・障害福祉の3つの報酬が同時に改定される6年に1度のトリプル改定の年ですが、その基本方針が明らかになりました。重要なポイントの一つが2025年を目途に構築することとなっている「地域包括ケアシステム」を踏まえた医療・介護・障害福祉サービスの連携強化です。そのための各種の加算や義務化の要件が発表されております。私どもの病院は回復期リハビリテーション病院ですので患者さんの紹介元としての急性期医療機関との前方連携はもとより、退院後の後方連携として地域のクリニックや各種の介護事業所との連携が欠かせません。すなわち医療・介護・福祉にまたがる領域に位置した医療機関としてその連携に努めなければならない立場です。その一環として病院の所在地である富谷市南部の医療・介護連携の会である「とみや南部健康福祉ネットワーク・笑結び(えんむすび)」に参加しています。黒川地域で地域連携の中心的活動を行っている公立黒川病院の横道医師の声

掛けと医薬品卸会社のバイタルネットさんのご支援をいただき2017年に設立しました。歯科クリニックを含む医療機関、調剤薬局、包括支援センター、居宅事業所、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、訪問介護事業所、通所介護事業所、グループホームなど地域のほぼすべての介護領域の事業所が参加し行政機関の富谷市役所の方もメンバーです。7年目を迎えお互いの名前と顔が一致する関係が出来、それぞれの強みと悩みを理解し協力体制を作り合っています。直近の全体会は本年の2月21日に開催し、「おひとりさまを支えよう」をテーマに地域の高齢単身生活者に対しそれぞれが可能な支援内容について話し合いました。また重要な連携手段になると思われるMMWIN(みやぎ医療福祉情報ネットワーク)について同事務局の方からの説明をお聞きしました。今後一層重要になる医療・介護の良好な連携のため、この会の発展を我々の病院もメンバーの皆さんとともに支えていきます。

病院長 渡邊 裕志



令和6年2月21日開催笑結び参加者スクリーンショット

介護予防・日常生活支援総合事業

当院の運動教室は、富谷市の介護予防・日常生活支援総合事業として実施しております。介護予防に重要な3つの柱である「運動機能」、「口腔機能」、「認知機能」の改善に向けて、介護保険を利用した運動教室を開催しております。

最近、足腰が弱ってきた、歩くのが遅くなった、動くとすぐに疲れる、体重が減ったなど、思い当たる事はありませんか？それは「フレイル（虚弱）」のサインかもしれません。フレイルは、健康と病気との段階です。病気になる前の予防が非常に大切です。集団体操の強みを生かし、“楽しく”“笑顔で”“効果のある運動”を基本に、リハビリの専門職である理学療法士と一緒に運動を行います。日々の運動を通して、住み慣れた地域で、楽しく自分らしい生活がいつまでも送ることが出来るよう、お手伝いをさせていただきたいと考えております。見学も可能ですので、ご興味のある方はお気軽にご相談下さい。

最後に、運動教室でサポートをして頂ける「運動サポーター（ボランティア）」を募集しております。こちら介護予防・日常生活支援総合事業の一環として実施しております。活動を通して、利用者様のサポートをしながら、御自身の健康増進にも繋がる機会となります。一緒に地域包括ケアシステムを支えていきましょう。

リハビリテーション部
理学療法士副主任 阿部 旭

ユニフォーム紹介

当院は職種によってユニフォームが違います。
今回ご紹介するのはリハビリスタッフ。
3職種、襟元とポケットの色で違いがわかります。
皆さんはお気づきでしたか？



OT（作業療法士）

PT（理学療法士）

ST（言語聴覚士）

地域医療連携室 大川

仙リハ コラム

～看護部より～

地域の訪問看護事業所との連携

当院には退院後、患者様をフォローする訪問看護事業所がないため、平成29年度から近隣の訪問看護事業所と連携を図ってきました。立ち上げ時からの活動内容は①情報共有となる退院時看護サマリーの検討②病棟看護師が訪問看護の実際を学ぶための体験③互いの現状を把握しスムーズな連携を図るための話し合いを定期的に行うことでした。コロナ禍となり行動制限が課され、3年間は、活動も自粛していましたが、アフターコロナとなり先月から定例会を再開したところです。これまでは対面での話し合いでしたが、Zoomでの話し合いができる環境となり、コロナ禍での訪問看護の現状や入院病床を持つ私達への要望などが聞かれました。それは、「入院中に自宅に戻られる患者様の生活に根差した指導を実施して欲しい。退院後しば

らくしてからの訪問依頼があり、その時点で退院時の機能が低下していたケースがあった。」生活の再獲得や機能維持のためには退院直後からの訪問看護の介入が必要などの生の声を伺うことができました。改めて、退院時指導を終え完結するのではなく、病棟看護師が介入していたことを訪問看護師に繋ぎ、退院直後もそれが継続されること、そして、自宅に戻られた患者様とご家族の生活のサイクルが整う過程を看護の視点で支援できる存在がいることが望ましいと考えています。

より多くの地域の訪問看護事業所と、当院を退院される患者様の退院後の生活を共に支えていきたいと思っていますので、賛同し連携が可能な事業所様がいらしたら是非、お声がけ頂けるとありがたいです。

回復期リハビリテーション病棟看護主任
村上 直美



ご質問にお答えします！

Q 食事の差し入れは可能ですか？

A 患者様毎に適切な栄養量を管理栄養士が管理しているため、給食以外の食事や間食などは原則不可としています。

Q 入院中の薬は出してもらえますか？

A 外用薬や点眼薬も含め、治療に必要な薬は入院中の主治医の指示のもと、当院で処方いたします（※一部例外あり）。薬についてご不安な点があるときは、スタッフへお気軽にご相談ください。

